

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標		今期	前年同期	前年同期比
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)		27/8 1.20 倍	26/8 1.03 倍	前年同月比 0.17 倍
電力使用量 (伊那営業所管内)	電灯	6～8月 70,973千kwh	6～8月 71,389千kwh	-0.58 %
	電力	6～8月 254,091千kwh	6～8月 261,944千kwh	-3.00 %
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	7,464 台	7,425 台	0.53 %
	中古車	1,927 台	1,771 台	8.81 %
	合計	9,391 台	9,196 台	2.12 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (上伊那地方事務所管内)		6～8月 222 件	6～8月 205 件	8.29 %
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数		128,440 人	123,716 人	3.82 %
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	294,484 台	290,309 台	1.44 %
	出	278,674 台	274,410 台	1.55 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	419,364 台	419,374 台	0.00 %
	出	425,030 台	427,613 台	-0.60 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	341,236 台	336,788 台	1.32 %
	出	344,567 台	341,323 台	0.95 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	243,354 台	244,839 台	-0.61 %
	出	235,645 台	239,864 台	-1.76 %

前期 4 - 6月 今期 7 - 9月 来期 10 - 12月 1 - 3月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先211社に対し、平成27年7月～9月期の景気の現状と平成27年10月～12月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

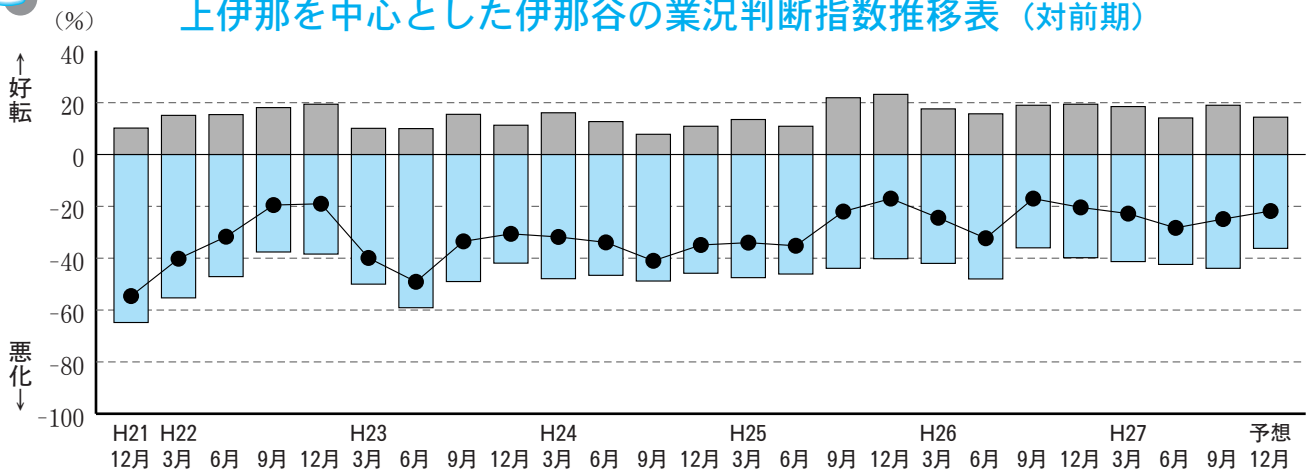
◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は**19.0%**（前期**14.1%**）、悪かったとする企業は**43.9%**（前期**42.4%**）、DIは**▲24.9**（前期**▲28.3**）と前期より**3.4**ポイント改善して3期ぶりに明るさが見えた。

業種別のDIを見ると、**製造業▲18.6**（前期▲5.8）、**建設業▲12.2**（前期▲24.4）、**卸売業▲30.0**（前期▲30.0）、**小売業▲59.5**（前期▲62.9）、**サービス業▲15.4**（前期▲48.0）、**不動産業0.0**（前期▲25.0）となっており、不動産業以外の業種がマイナスの領域となっている。前期と比較して、製造業は12.8ポイント悪化が強まったが、不動産業は25.0ポイント改善、また、建設業は12.2ポイント、小売業は3.4ポイント、サービス業は32.6ポイント、それぞれ水面下ながら改善した。卸売業は前期と同水準となっている。

◇**来期の見通し**：来期の業況を総合的に見ると、DIは**▲21.8**（今期▲24.9）と今期より**3.1**ポイント改善、今期に次いで来期も厳しさが和らぐ見通しである。

業種別のDIを見ると、**製造業▲11.4**（今期▲18.6）、**建設業▲22.5**（今期▲12.2）、**卸売業0.0**（今期▲30.0）、**小売業▲35.1**（今期▲59.5）、**サービス業▲38.5**（今期▲15.4）、**不動産業▲20.0**（今期0.0）と、卸売業以外の業種はマイナスの見通しとなっている。今期と比較して、製造業は7.2ポイント、卸売業は30.0ポイント、小売業は24.4ポイント改善する見通し、建設業は10.3ポイント、サービス業は23.1ポイント、不動産業は20.0ポイント悪化幅が拡大する見通しである。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	平成27年 1～3月期	平成27年 4～6月期	平成27年 7～9月期	平成27年 10～12月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☁	☁	☁	☁
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁	☔	☔	☁
小売業		☔	☔	☔	☔
サービス業		☔	☔	☁	☔
不動産業		☔	☁	☁	☁



製 造 業 (調査先企業 78 社 うち回答企業 71 社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**20.0%**（前期**26.1%**）、悪かったとする企業は**38.6%**（前期**31.9%**）でDIは**▲18.6**（前期**▲5.8**）と**12.8**ポイント悪化した。

各指標別で見ると、売上額のDIは**2.9**（前期**4.3**）と**1.4**ポイント増加幅が縮小した。受注残のDIは**▲9.8**（前期**▲10.2**）とほぼ前期同様となっている。収益のDIは**▲12.7**（前期**▲4.3**）と**8.4**ポイント減少を強めた。原材料価格は上昇した企業が**19.7%**（前期**42.9%**）、下降した企業が**9.9%**（前期**0.0%**）でDIは**▲9.8**（前期**▲42.9**）と原材料価格は上昇が弱まり落ち着きを見せた。販売価格は上昇した企業が**1.4%**（前期**1.4%**）、下降した企業が**9.9%**（前期**8.6%**）で、DIは**▲8.5**（前期**▲7.2**）と販売価格は僅かではあるが厳しさを強めた。資金繰りのDIは**▲16.9**（前期**▲17.4**）でほぼ前期同様となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲18.3**（前年同期**14.7**）と**33.3**ポイント減少し水面下に落ち込んだ。収益はDI**▲22.6**（前年同期**▲1.5**）と**21.1**ポイント減少幅が拡大した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DIは**▲11.4**（今期**▲18.6**）と**7.2**ポイント増加、今期は悪化したがり持ち直すとして予想している。

各指標別で見ると、売上額はDI**12.9**（今期**2.9**）と増加幅が拡大、受注残はDI**5.7**（今期**▲9.8**）と増加に転じると予想している。収益はDI**0.0**（今期**▲12.7**）で持ち直すとして予想している。資金繰りのDIは**▲14.3**（今期**▲16.9**）と改善を予想している。

◆DI指数推移

	平成26年		平成27年		予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲8.9	▲27.5	▲12.7	▲5.8	▲18.6	▲11.4
売 上 額	▲4.4	▲7.1	▲1.4	4.3	2.9	12.9
受 注 残	▲7.4	▲12.8	▲7.1	▲10.2	▲9.8	5.7
収 益	▲20.6	▲14.3	▲1.4	▲4.3	▲12.7	0.0
販 売 価 格	▲7.4	▲5.7	▲1.4	▲7.2	▲8.5	▲5.7
原 材 料 価 格	▲41.1	▲40.0	▲45.1	▲42.9	▲9.8	▲11.5
原 材 料 在 庫	7.3	▲2.9	14.1	11.6	8.5	1.5
資 金 繰 り	▲11.8	▲15.7	▲14.0	▲17.4	▲16.9	▲14.3

◆借入金の動き・難易度（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	36.8	47.1	30.0	39.1	38.6	33.3
	しない	63.2	52.9	70.0	60.9	61.4	66.7
借 入 難 易 度	容 易	12.3	8.7	10.0	2.9	11.3	—
	不 変	63.1	60.9	62.8	78.3	67.5	—
	難	10.8	13.0	12.9	5.8	8.5	—
	該当なし	13.8	17.4	14.3	13.0	12.7	—

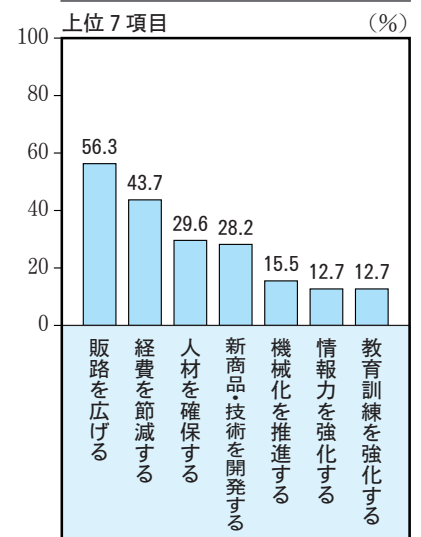
◆設備投資の動き（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	43.6	44.3	41.9	43.0	44.6	47.6
	しない	56.4	55.7	58.1	57.0	55.4	52.4
状 況	過 剰	7.5	5.7	11.3	2.9	15.5	7.2
	適 正	74.6	77.2	70.4	78.5	69.0	75.4
	不 足	17.9	17.1	18.3	18.6	15.5	17.4
DI	▲10.4	▲11.4	▲7.0	▲15.7	0.0	▲10.2	

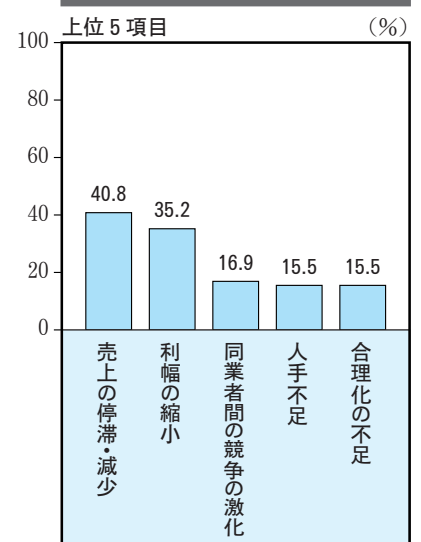
◆雇用面の動き（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	16.2	17.1	33.8	22.9	15.5	20.0
	不 変	63.2	62.9	46.5	57.1	62.0	62.9
	減 少	20.6	20.0	19.7	20.0	22.5	17.1
人 手	過 剰	16.4	14.3	11.3	5.7	14.1	7.1
	適 正	65.7	64.3	67.6	75.7	53.5	61.5
	不 足	17.9	21.4	21.1	18.6	32.4	31.4

重点経営施策（複数回答）



経営上の問題点（複数回答）



建設業

(調査先企業 46 社 うち回答企業 41 社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**24.4%**（前期**14.6%**）、悪かったとする企業は、**36.6%**（前期**39.0%**）で、DIは**▲12.2**（前期**▲24.4**）と**12.2**ポイント改善し3期ぶりに明るさが見えた。

各指標別で見ると、売上額のDIは**▲12.5**（前期**▲26.8**）と**14.3**ポイント改善した。受注残はDI**▲7.5**（前期**▲17.1**）と**9.6**ポイント改善した。施工高はDI**▲2.6**（前期**▲21.9**）と**19.3**ポイント改善した。収益はDI**▲27.5**（前期**▲29.3**）で**1.8**ポイント僅かではあるが改善した。価格面では請負価格がDI**▲17.5**（前期**▲7.3**）で価格の下降が強まった。材料価格はDI**▲30.0**（前期**▲41.5**）と材料価格の上昇が弱まった。資金繰りについては、DI**▲28.2**（前期**▲26.8**、前々期**▲27.5**）と3期連続ほぼ同じ状態で推移している。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲19.5**（前年同期**14.3**）と**33.8**ポイント下降し増加から減少に転じた。収益はDI**▲21.9**（前年同期**▲7.2**）と**14.7**ポイント減少を強めた。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**▲22.5**（今期**▲12.2**）と**10.3**ポイント減少、再び業況感が落ち込むと予想している。

各指標別で見ると、売上額はDI**▲7.5**（今期**▲12.5**）と**5.0**ポイント改善する見通しである。受注残はDI**▲20.0**（今期**▲7.5**）と**12.5**ポイント低下、減少を強める見通しである。収益はDI**▲25.0**（今期**▲27.5**）と**2.5**ポイント小幅ながら改善する見通しである。資金繰りはDI**▲33.4**（今期**▲28.2**）と**5.2**ポイント低下し厳しさが増す見通しである。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	平成26年		平成27年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲4.7	▲2.4	▲5.0	▲24.4	▲12.2	▲22.5
売 上 額	▲4.7	14.6	▲12.5	▲26.8	▲12.5	▲7.5
受 注 残	▲19.5	9.7	▲22.5	▲17.1	▲7.5	▲20.0
収 益	▲21.4	▲17.1	▲20.0	▲29.3	▲27.5	▲25.0
請 負 価 格	▲4.9	0.0	▲10.0	▲7.3	▲17.5	▲20.0
材 料 価 格	▲50.0	▲39.1	▲25.0	▲41.5	▲30.0	▲33.3
在 庫	4.7	▲2.5	7.5	7.3	2.5	5.1
資 金 繰 り	▲31.0	▲17.1	▲27.5	▲26.8	▲28.2	▲33.4

◆借入金の動き・難易度（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	59.5	57.5	43.6	37.5	47.5	43.6
	しない	40.5	42.5	56.4	62.5	52.5	56.4
借 入 難 易 度	容 易	4.9	2.5	10.5	4.9	10.0	—
	不 変	75.5	72.5	68.4	58.5	67.5	—
	難	9.8	17.5	13.2	17.1	12.5	—
	該当なし	9.8	7.5	7.9	19.5	10.0	—

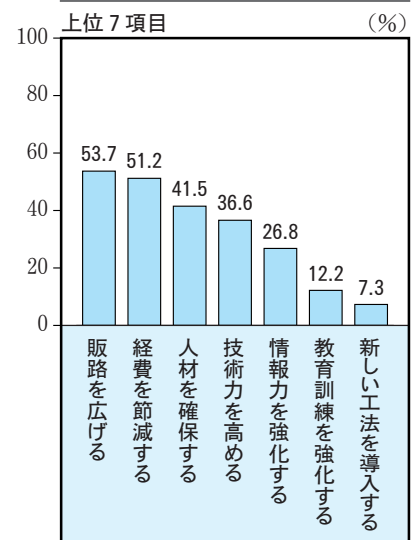
◆設備投資の動き（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	32.7	42.9	40.0	37.3	31.9	27.3
	しない	67.3	57.1	60.0	62.7	68.1	72.7
状 況	過 剰	0.0	0.0	0.0	4.9	2.4	5.0
	適 正	92.9	85.0	90.0	80.5	78.1	80.0
	不 足	7.1	15.0	10.0	14.6	19.5	15.0
DI	▲7.1	▲15.0	▲10.0	▲9.7	▲17.1	▲10.0	

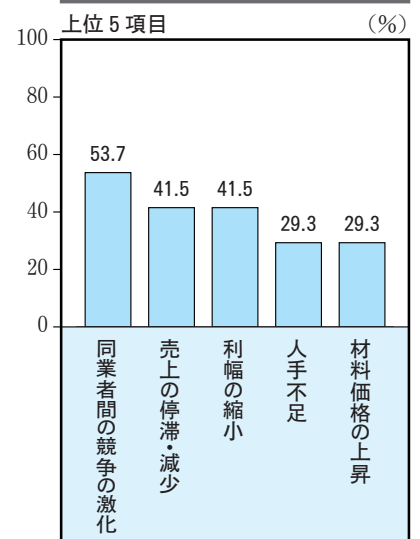
◆雇用面の動き（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	7.1	17.1	15.0	9.8	7.7	7.7
	不 変	81.0	78.0	75.0	63.4	79.5	79.5
	減 少	11.9	4.9	10.0	26.8	12.8	12.8
人 手	過 剰	7.1	2.4	7.5	10.0	14.6	17.1
	適 正	59.6	65.9	55.0	65.0	56.1	51.2
	不 足	33.3	31.7	37.5	25.0	29.3	31.7

重点経営施策（複数回答）



経営上の問題点（複数回答）



卸 売 業 (調査先企業 11 社 うち回答企業 10 社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は0.0%（前期10.0%）で、悪かったとする企業は30.0%（前期40.0%）でDI▲30.0（前期▲30.0）と前期同様に推移した。

各指標別に見ると、売上額のDIは▲20.0（前期▲10.0）と10.0ポイント減少を強め、収益のDIは▲20.0（前期20.0）と40.0ポイント下降し増加から減少に転じた。販売価格はDI20.0（前期30.0）で価格が上昇した企業は2割となっている。仕入価格のDIは▲30.0（前期▲40.0）と価格の上昇に弱まりを見せたが、まだ、3割の企業が価格の上昇をしている。資金繰りはDI▲20.0（前期10.0）と30.0ポイント下降し厳しい状況に転じた。借入れをした企業は40.0%（前期30.0%）、設備投資の実施をした企業は0.0%（前期20.0%）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI▲30.0（前年同期▲60.0）と改善し、収益はDI10.0（前年同期▲20.0）と良化した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI0.0（今期▲30.0）と持ち直すと予想している。

各指標別で見ると、売上額と収益のDIは60.0（今期▲20.0）とそれぞれ80ポイント大幅に増加、好転を予想している。販売価格は上昇が止まると予想している。仕入価格は価格の上昇がさらに弱まると予想している。借入れを予定している企業は10.0%（今期実施40.0%）と減少する見通しである。設備投資の実施を予定している企業は10.0%（今期実施0.0%）となっている。

◆DI指数推移

	平成26年		平成27年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲60.0	10.0	▲11.1	▲30.0	▲30.0	0.0
売 上 額	▲10.0	50.0	▲44.5	▲10.0	▲20.0	60.0
収 益	▲10.0	30.0	▲33.3	20.0	▲20.0	60.0
販 売 価 格	20.0	20.0	33.3	30.0	20.0	0.0
仕 入 価 格	▲20.0	▲70.0	▲66.7	▲40.0	▲30.0	▲10.0
在 庫	30.0	10.0	22.2	20.0	20.0	10.0
資 金 繰 り	▲20.0	▲10.0	▲22.2	10.0	▲20.0	0.0

◆借入金の動き・難易度（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	40.0	50.0	44.4	30.0	40.0	10.0
	しない	60.0	50.0	55.6	70.0	60.0	90.0
借 入 難 易 度	容 易	1.0	10.0	0.0	10.0	10.0	—
	不 変	69.0	60.0	77.8	60.0	70.0	—
	難	10.0	10.0	11.1	10.0	0.0	—
	該当なし	20.0	20.0	11.1	20.0	20.0	—

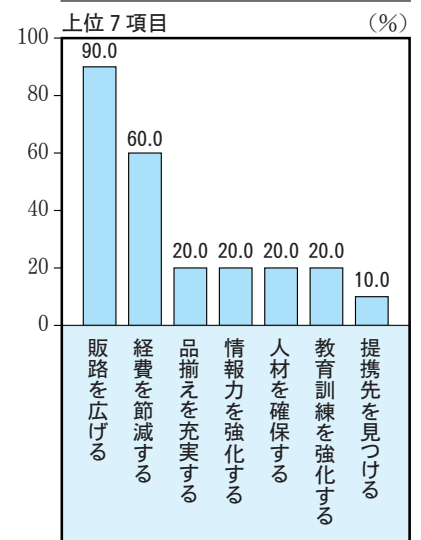
◆設備投資の動き（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	9.1	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0
	しない	90.9	90.0	100.0	80.0	100.0	90.0
状 況	過 剰	11.1	10.0	11.1	10.0	10.0	10.0
	適 正	77.8	60.0	77.8	80.0	80.0	80.0
	不 足	11.1	30.0	11.1	10.0	10.0	10.0
DI	0.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

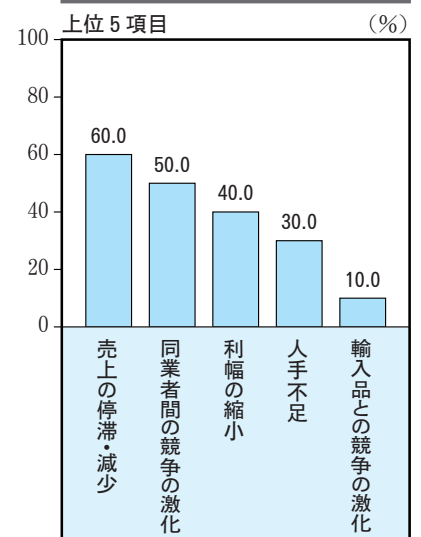
◆雇用面の動き（有効回答に占める割合）（%）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	不 変	77.8	90.0	77.8	100.0	100.0	90.0
	減 少	0.0	10.0	22.2	0.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
	適 正	90.0	90.0	55.6	100.0	80.0	70.0
	不 足	10.0	10.0	22.2	0.0	20.0	30.0

重点経営施策（複数回答）



経営上の問題点（複数回答）



小 売 業 (調査先企業 40 社 うち回答企業 37 社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**10.8%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**70.3%**（前期**62.9%**）で、DI▲**59.5**（前期▲**62.9**）と3.4ポイント改善、3期ぶりに少し明るさが見えた。

各指標別に見ると、売上額のDIは▲**37.9**（前期▲**42.8**）、収益のDIは▲**46.0**（前期▲**60.0**）と、それぞれ4.9ポイント、14.0ポイント改善した。販売価格は落ち着きを見せた。仕入価格は前期上昇を強めたが今期は上昇に弱まりを見せた。資金繰りのDIは▲**29.7**（前期▲**53.0**）と23.3ポイント改善した。借入れをした企業は**16.2%**（前期**14.3%**）、設備投資の実施をした企業は**15.8%**（前期**13.9%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI▲**46.0**（前年同期▲**21.6**）、収益はDI▲**43.3**（前年同期▲**18.9**）と、それぞれ24.4ポイント改善した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI▲**35.1**（今期▲**59.5**）と24.4ポイント改善、今期に引き続き持ち直すと予想している。

各指標別で見ると、売上額のDIは**0.0**（今期▲**37.9**）、収益のDIは▲**8.1**（今期▲**46.0**）と、それぞれ37.9ポイント改善すると予想している。販売価格は上昇傾向を強めると予想している。仕入価格は上昇が強まると予想している。借入れを予定している企業は**11.1%**（今期実施**16.2%**）と今期より減少する見通しである。設備投資の実施を予定している企業は**23.7%**（今期実施**15.8%**）と今期より増加する見通しである。

◆DI指数推移

	平成26年		平成27年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲32.4	▲20.5	▲37.9	▲62.9	▲59.5	▲35.1
売 上 額	▲10.8	28.2	▲44.8	▲42.8	▲37.9	0.0
収 益	▲32.4	10.3	▲36.8	▲60.0	▲46.0	▲8.1
販 売 価 格	21.6	7.7	▲21.0	2.9	0.0	16.2
材 料 価 格	▲41.6	▲28.2	▲18.4	▲40.0	▲18.9	▲35.1
在 庫	21.6	23.0	13.1	8.6	10.8	10.8
資 金 繰 り	▲24.3	▲23.1	▲15.7	▲53.0	▲29.7	▲35.1

◆借入金の動き・難易度（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	した	24.3	23.1	23.7	14.3	16.2	11.1
	しない	75.7	76.9	76.3	85.7	83.8	88.9
借 入 難 易 度	容 易	19.4	18.4	13.5	20.6	16.7	—
	不 変	44.5	42.2	51.4	41.1	41.6	—
	難	11.1	10.5	10.8	11.8	16.7	—
	該当なし	25.0	28.9	24.3	26.5	25.0	—

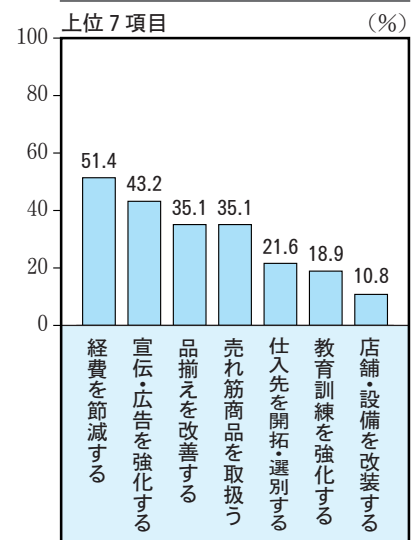
◆設備投資の動き（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	16.2	15.4	14.6	13.9	15.8	23.7
	しない	83.8	84.6	85.4	86.1	84.2	76.3
状 況	過 剰	13.5	2.6	5.4	3.0	8.6	3.0
	適 正	64.9	76.3	75.7	66.7	71.4	75.8
	不 足	21.6	21.1	18.9	30.3	20.0	21.2
DI	▲8.1	▲18.5	▲13.5	▲27.3	▲11.4	▲18.2	

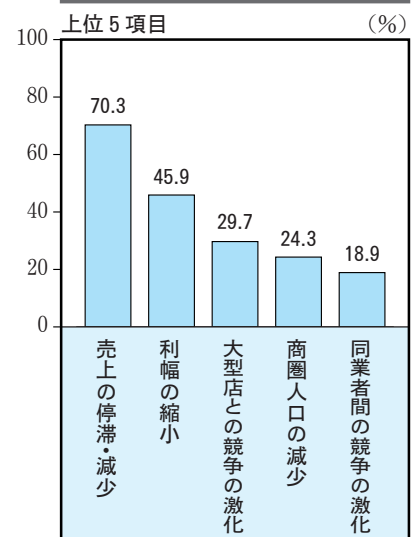
◆雇用面の動き（有効回答に占める割合）

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	2.8	8.1	2.9	8.8	5.6	13.9
	不 変	88.9	89.2	85.7	82.4	88.8	80.5
	減 少	8.3	2.7	11.4	8.8	5.6	5.6
人 手	過 剰	13.5	5.3	11.1	9.1	11.1	8.3
	適 正	78.4	73.6	72.2	81.8	77.8	75.0
	不 足	8.1	21.1	16.7	9.1	11.1	16.7

重点経営施策（複数回答）



経営上の問題点（複数回答）



サービス業 (調査先企業 30 社 うち回答企業 26 社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**23.1%**（前期**4.0%**）、悪かったとする企業は**38.5%**（前期**52.0%**）で、DIは**▲15.4**（前期**▲48.0**）と**32.6**ポイント改善（2期連続）した。

各指標別で見ると、売上額のDIは**11.5**（前期**▲7.7**）、収益のDIは**3.8**（前期**▲11.6**）と、それぞれ**19.2**ポイント・**15.4**ポイント改善した。仕入価格のDIは**▲34.7**（前期**▲38.5**）で仕入価格が上昇した企業の割合が4割近くある。料金価格は上昇がさらに弱まっている。資金繰りのDIは**▲3.8**（前期**▲27.0**）と**23.2**ポイント厳しさが和らいだ。借入れをした企業は**50.0%**（前期**15.4%**）、設備投資の実施をした企業は**34.5%**（前期**21.4%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲15.4**（前年同期**▲18.5**）、収益はDI**▲19.2**（前年同期**▲33.3**）と、それぞれ**3.1**ポイント・**14.1**ポイント改善した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについて、DI**▲38.5**（今期**▲15.4**）と**23.1**ポイント減少、改善傾向であったが業況感が落ち込むと予想している。

各指標別で見ると、売上額のDIは**▲46.2**（今期**11.5**）、収益のDIは**▲42.4**（今期**3.8**）と、それぞれ**57.7**ポイント・**46.2**ポイント減少幅が拡大すると予想している。料金価格は価格が下降したとする企業の割合が増加する見通しである。資金繰りのDIは**▲27.0**（今期**▲3.8**）と厳しさが増すと予想している。借入れを予定している企業は**28.0%**（今期実施**50.0%**）と今期より減少する見通しである。設備投資の実施を予定している企業は**15.4%**（今期実施**34.5%**）と今期より減少する見通しである。

◆DI指数推移

(%)

	平成26年		平成27年		予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	▲22.2	▲48.2	▲55.6	▲48.0	▲15.4	▲38.5
売 上 額	▲3.7	▲33.3	▲44.5	▲7.7	11.5	▲46.2
収 益	▲11.1	▲26.9	▲48.2	▲11.6	3.8	▲42.4
料 金 価 格	14.8	▲7.4	3.7	11.6	3.8	▲11.5
材 料 価 格	▲55.6	▲44.4	▲48.1	▲38.5	▲34.7	▲38.5
資 金 繰 り	▲11.6	▲25.9	▲34.6	▲27.0	▲3.8	▲27.0

◆借入金の動き・難易度 (有効回答に占める割合)

(%)

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 施	した	22.2	33.3	30.8	15.4	50.0	28.0
	しない	77.8	66.7	69.2	84.6	50.0	72.0
借 入 難 易 度	容 易	8.0	3.7	3.8	3.8	12.5	—
	不 変	76.0	66.7	61.6	73.1	66.6	—
	難	12.0	18.5	26.9	15.4	16.7	—
	該当なし	4.0	11.1	7.7	7.7	4.2	—

◆設備投資の動き (有効回答に占める割合)

(%)

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
実 施	した	10.7	28.6	20.7	21.4	34.5	15.4
	しない	89.3	71.4	79.3	78.6	65.5	84.6
状 況	過 剰	0.0	0.0	7.7	3.8	3.8	3.8
	適 正	85.2	85.2	76.9	88.5	80.8	80.8
	不 足	14.8	14.8	15.4	7.7	15.4	15.4
DI	▲14.8	▲14.8	▲7.7	▲3.9	▲11.6	▲11.6	

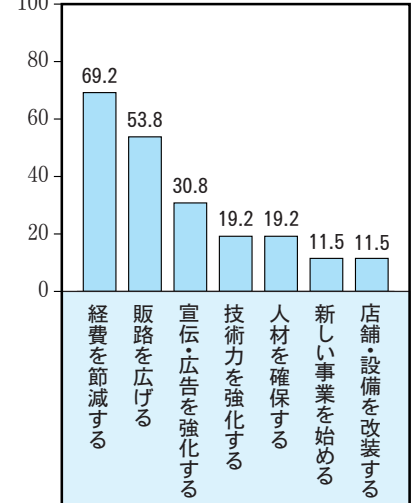
◆雇用面の動き (有効回答に占める割合)

(%)

	平成26年		平成27年		予 想		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	15.4	7.4	0.0	11.5	16.0	8.0
	不 変	69.2	74.1	73.1	65.4	76.0	80.0
	減 少	15.4	18.5	26.9	23.1	8.0	12.0
人 手	過 剰	14.8	0.0	22.2	11.5	0.0	0.0
	適 正	59.3	63.0	55.6	73.1	61.5	65.4
	不 足	25.9	37.0	22.2	15.4	38.5	34.6

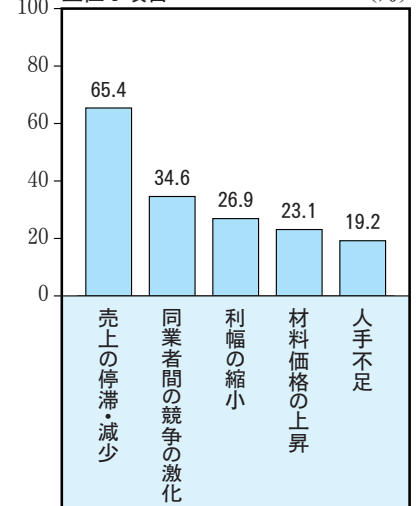
重点経営施策 (複数回答)

上位7項目 (%)



経営上の問題点 (複数回答)

上位5項目 (%)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業5社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**40.0%**（前期**0.0%**）、悪かったとする企業は**40.0%**（前期**25.0%**）で、DIは**0.0**（前期**▲25.0**）と悪化幅が縮小した。

各指標別で見ると、売上額と収益のDIは**20.0**（前期**0.0**）と、それぞれ**20.0**ポイント良化した。販売価格と仕入価格のDIは**0.0**（前期**0.0**）と、それぞれ落ち着きを見せている。借入れをした企業は**20.0%**（前期**0.0%**）。

前年同期比で見ると、売上額はDI**10.0**（前年同期**16.7**）と増加幅が縮小した。収益はDI**10.0**（前年同期**0.0**）と落ち着いた状態となっている。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについてはDI**▲20.0**（今期**0.0**）と悪化が強まる予想をしている。

各指標別で見ると、売上額と収益のDIは**0.0**（今期**20.0**）と、それぞれ増加幅が縮小すると予想している。販売価格と仕入価格のDIは**0.0**（今期**0.0**）と、今期同様に販売・仕入価格に変動はないと予想している。借入れを予定している企業は**20.0%**（今期実施**20.0%**）と、今期同様の見通しである。

◆DI指数推移 (%)

	平成26年		平成27年			予 想
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業 況	0.0	20.0	▲40.0	▲25.0	0.0	▲20.0
売 上 額	16.6	0.0	▲20.0	0.0	20.0	0.0
収 益	16.6	0.0	▲20.0	0.0	20.0	0.0
販 売 価 格	▲33.3	▲20.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0
仕 入 価 格	16.7	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
在 庫	▲16.7	▲40.0	▲20.0	0.0	0.0	0.0
資 金 繰 り	0.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0

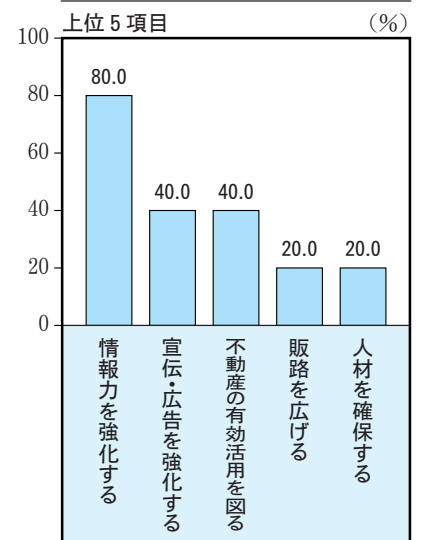
◆借入金の動き・難易度 (有効回答に占める割合) (%)

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
借 入 実 施	し た	16.7	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0
	し ない	83.3	80.0	80.0	100.0	80.0	80.0
借 入 難 易 度	容 易	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	60.0	25.0	75.0	66.7	50.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 なし	40.0	50.0	25.0	33.3	50.0	—

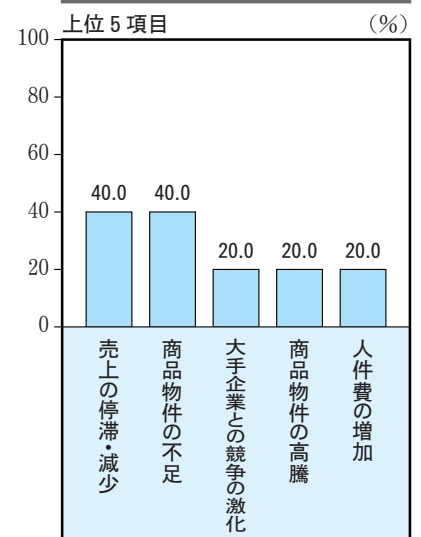
◆雇用面の動き (有効回答に占める割合) (%)

	平成26年		平成27年			予 想	
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
	不 変	100.0	100.0	75.0	100.0	100.0	75.0
	減 少	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	不 足	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



特別調査

中小企業が地域金融機関に望むこと

問 1 貴社の社長(代表者)の年齢、貴社の業歴についてお答えください。

■ **社長(代表者)の年齢** 総合では、「60歳代」が36.3%と一番多く、次いで「50歳代」26.2%、「40歳代」と「70歳代以上」17.7%の順となっている。

業種別で見ると、建設業の「60歳代」は61.0%と高い割合を占めている。また、「70歳代以上」の業種では、不動産業が60.0%、製造業が24.4%、卸売業が20.0%と総合の割合を上回っている。

■ **業歴** 総合では、「40年以上」が65.0%と一番多く、次いで「30年以上～40年未満」16.7%、「20年以上～30年未満」10.8%の順となっている。業種別で見てもほぼ同様である。(%)

社長(代表者)の年齢	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 20歳代、30歳代	2.1	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 40歳代	17.7	19.7	4.9	30.0	11.4	32.0	40.0
3. 50歳代	26.2	16.9	26.8	40.0	40.0	32.0	0.0
4. 60歳代	36.3	33.8	61.0	10.0	31.5	28.0	0.0
5. 70歳代以上	17.7	24.0	7.3	20.0	17.1	8.0	60.0
業歴	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
6. 10年未満	2.7	2.9	0.0	11.1	2.8	4.0	0.0
7. 10年以上～20年未満	4.8	5.7	0.0	0.0	8.3	8.0	0.0
8. 20年以上～30年未満	10.8	12.9	7.3	0.0	11.1	12.0	20.0
9. 30年以上～40年未満	16.7	15.7	17.1	33.3	5.6	20.0	60.0
10. 40年以上	65.0	62.8	75.6	55.6	72.2	56.0	20.0

問 2 貴社におけるメインバンクについてお答えください。また、メインバンクとの取引期間についてお答えください。

■ **メインバンク** 総合では、「アルプス中央信用金庫」が76.2%と一番多く、次いで「地銀・第二地銀」21.1%の順となっている。業種別で見てもほぼ同様である。

■ **メインバンクとの取引期間** 総合では、「20年以上」が90.4%と一番多く、次いで「10年以上～20年未満」7.5%、「5年以上～10年未満」2.1%の順となっている。業種別で見てもほぼ同様である。(%)

メインバンク	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. アルプス中央信用金庫	76.2	63.4	87.8	70.0	83.3	84.6	80.0
2. 他の信用金庫	1.1	1.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
3. 都市銀行	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4. 地銀・第二地銀	21.1	32.4	9.8	30.0	16.7	15.4	0.0
5. 信組・農協・その他	1.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
6. 政府系金融機関	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
取引期間	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
7. 5年未満	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 5年以上～10年未満	2.1	1.4	0.0	10.0	0.0	3.9	20.0
9. 10年以上～20年未満	7.5	11.5	2.4	0.0	5.7	11.5	0.0
10. 20年以上	90.4	87.1	97.6	90.0	94.3	84.6	80.0

問 3 地域金融機関の体制面で望むことについてお答えください。

(複数回答)

総合では、「要望に対する迅速な対応」が一番多く、次いで「担当者の頻繁な人事異動がないこと」、「金融機関の本部専担者・外部専門家による支援」、「担当者交替時の丁寧な引継」が多い回答となっている。

業種別に見てもほぼ同様な回答となっており、まずは迅速な対応体制、担当者のきめ細かな対応、支援体制の充実を重点に望んでいることが伺える。(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 担当者の訪問回数の増加	7.4	7.0	7.3	0.0	13.5	3.8	0.0
2. 担当者訪問時の滞在時間の延長	2.1	1.4	4.9	0.0	0.0	0.0	20.0
3. 担当者交代時の丁寧な引継ぎ	17.9	21.1	14.6	30.0	2.7	26.9	40.0
4. 担当者の頻繁な人事異動がないこと	27.9	21.1	34.1	30.0	27.0	34.6	40.0
5. 支店窓口での相談機能の強化	9.5	7.0	7.3	10.0	21.6	0.0	20.0
6. インターネットバンキング等の非対面チャネル充実	8.4	12.7	12.2	10.0	2.7	0.0	0.0
7. 金融機関の本部専担者・外部専門家による支援	18.9	18.3	19.5	10.0	27.0	15.4	0.0
8. 要望に対する迅速な対応	46.8	54.9	51.2	40.0	32.4	42.3	40.0
9. その他	5.3	2.8	7.3	20.0	5.4	3.8	0.0
10. 特に期待していない	6.8	5.6	4.9	20.0	10.8	3.8	0.0

問 4 地域金融機関にどのような金融取引以外の支援サービスを期待しますか。 (複数回答)

総合では、「補助金、助成金の紹介・相談」が一番多く、次いで「ビジネスマッチング等販路拡大支援」、「事業計画、経営戦略の策定支援」、「財務診断アドバイス」が多い回答となっている。

業種別に見てもほぼ同様な回答となっている。なお、製造業においては半数近い企業が「補助金、助成金の紹介・相談」を期待しており、卸売業においては半数の企業が「事業計画、経営戦略の策定支援」を期待している。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 事業計画、経営戦略の策定支援	25.8	21.1	26.8	50.0	29.7	26.9	0.0
2. 財務診断アドバイス	23.7	22.5	26.8	10.0	24.3	26.9	20.0
3. ビジネスマッチング等販路拡大支援	30.0	33.8	29.3	30.0	27.0	30.8	0.0
4. 補助金、助成金の紹介・相談	39.5	47.9	34.1	20.0	37.8	34.6	40.0
5. 事業承継、M&A支援等	5.8	5.6	2.4	0.0	8.1	11.5	0.0
6. 研究開発のための専門機関紹介	1.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. 海外展開支援	1.1	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8. 1~7以外の経営に関する情報提供	3.2	4.2	2.4	0.0	0.0	3.8	20.0
9. その他	2.6	4.2	2.4	0.0	2.7	0.0	0.0
10. 特に期待していない	10.0	8.5	7.3	20.0	10.8	15.4	0.0

問 5 当金庫による貴社への訪問頻度に関し、最もあてはまるものをお答えください。また、その他の主な取引金融機関による訪問頻度に関し、最もあてはまるものをお答えください。

当金庫による訪問頻度は、総合で「満足している」が96.3%、「少なすぎる」3.2%、「多すぎる」0.5%で、多くの企業に満足頂いている。

(%)

当金庫の訪問頻度	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 多すぎる	0.5	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
2. 満足している	96.3	100.0	95.1	90.0	94.4	96.2	80.0
3. 少なすぎる	3.2	0.0	4.9	0.0	5.6	3.8	20.0
その他の主な取引金融機関の訪問頻度	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
4. 多すぎる	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5. 満足している	66.1	78.3	52.6	80.0	61.1	60.0	40.0
6. 少なすぎる	17.0	11.6	18.4	10.0	27.8	16.0	20.0
7. 当金庫以外取引なし	16.9	10.1	29.0	10.0	11.1	24.0	40.0



アルプス中央信用金庫

経済文化講演会

アグネス・チャン氏

『明るくさわやかに生きる』

～アグネスが見つめた生命～

平成27年 11月15日(日) 駒ヶ根市文化会館
開演 14:00 (開場 13:30) 大ホール (定員800名)

講師 アグネス・チャン氏

テーマ 『明るくさわやかに生きる』
～アグネスが見つめた生命～

入場無料

入場無料ですが整理券をお渡しますので事前にお申込み下さい。

2007年10月1日、ピンクリボンの日にアグネス氏は乳がんの手術を受けました。その後(公財)日本対がん協会の「ほほえみ大使」に就任し、精力的にがんの早期発見と検診を訴えているアグネス氏。「胸はちょっぴり小さくなったけれど、ハートは大きくなりました」という言葉どおり、元気に、明るくさわやかに、歌手として、文化人として、一人のボランティアとして活動を続けています。日本人の2人に1人が、がんにかかる時代。アグネス氏の実体験にもとづいた話は、多くの人に勇気と希望を与えることでしょう。

主催:アルプス中央信用金庫

協賛:しんきん経営者協議会

お問い合わせ先:アルプス中央信用金庫 業務推進部
フリーダイヤル 0120-173-017 または 0265-74-9612 (直通)